

act1

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

スタジオの中で荏原が撮影の準備をしてい

季節は夏で窓の外は薄曇り、スタジオ内は薄暗い。

電気を付け照明のセッティング、立ち位置の確認、場ミリ、映り具合をのチェックをする荏原。

※ナレーション（荏原）

ナレ：世の中随分便利になったよな。オレが若い頃デビューするにはプロダクションのオーディションを受けたり、劇団のオーディションを受けたり…合格してもプロダクションに何十万もの入所金を払い、月々のレッスン料を払いつつ、いつ訪れるかわからないデビューの日を待ちながら過ごしていた。劇団に所属しても公演の度にチケットノルマがあって知り合いに頭を下げてはチケットを買ってもらう…払えなかった分はもちろん自腹だ。それが今じゃスマホ一つあれば動画サイトにアップして日本どころか世界中の人に自分の事をアピールする出来る。もちろんそれで生活していける人はほんの一握りだが、前に比べれば全然良い。悪口を書き込まれたり、炎上したりはあるけど、自分を表現して人に見てもらえる喜びに比べれば、多少のリスク位なんてことない。

撮影の準備が出来た荏原。

録画ボタンを押し撮影を始める。

荏原：皆さんごきげんよう…これじゃパクリだな

act2

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

折りたたみ椅子に座り考え込む荏原。

ノートに書いては消し、書いては消しを繰り返している。

生徒達がおはようございますと挨拶しながらスタジオに入ってくる。

ユリ：先生、まだレッスン時間には早くない？

荏原：今日から YouTuber デビューしようかと思って…

ユリ：今更？私達もだけど

アヤ：プロダクションの公式に上げる動画を撮れって、マネージャーに言われたの

セイヤ：オレらはその手伝い

サチコ：セイヤさんも出たかったみたいだけど、出るのはユリちゃんだけなんです…

ユリ：しょうがないじゃん、私可愛いし
セイヤ：はい、はい
サチコ：ユリちゃんは昔からみんなの人気者だったんです
アヤ：彼氏が出来たのもユリが一番最初だよ
荏原：これからデビューしようって人間が元彼だの彼氏だのって
アヤ：考え方ふるーい
荏原：そうか？
ユリ：スターの裏側ってみんな知りたいじゃん
荏原：スター気取りかよ
ユリ：意地悪！
アヤ：でもみんなの裏の顔なんて知り尽くしてるし
荏原：お前ら付き合い長いのか？
ユリ：みんなオナ小、オナ中だよ
荏原：その上プロダクションも同期って、お前ら仲良いんだな

外から雷の音。
雨が窓を叩き始める。

セイヤ：降ってきちゃった
ユリ：早く撮影しちやおう
荏原：そうだな
アヤ：先生の機材どかして
荏原：なんでだよ
ユリ：可愛いレッスン生の為に先生が場所譲ってくれるってー
アヤ：さっすがー
荏原：オレも今から撮影すんだよ？オレのチャンネルはヒップホップの紹介やファッションやカルー
アヤ：サチコお願い

サチコは申し訳なさそうに、荏原の機材を片付ける。
セイヤは自分たちの機材を出す。

荏原：わかりましたよ。可愛い君達の為にお片付けしますよ

荏原はスマホやイスを片付け、部屋を出ていく。
出口付近で振り返りレッスン生達を見つめる。

セイヤと目が合い、セイヤは微笑んで目礼する。
微笑み返しスタジオを後にする荳原。
スタジオ室外のエレベーターのボタンを押す。
エレベーターが開いてレッスン生の小林が出てくる。

小林：おはようございます！もう入っても大丈夫ですか？
荳原：おはよう！中でユリたちが撮影してるよ
小林：今日も宜しくお願い致します！
荳原：はいよ

スタジオの中へ入る小林。
エレベーターの中の荳原は鼻をクンクンさせる。

荳原：なんか汗くさいな

エレベーターを降り、エントラスから外を見ると土砂降りになっている。

act3

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 夕方

ユリ、アヤ、セイヤ、サチコ床の上に座り込んでいる。
ノートパソコンを手にした荳原がスタジオに入ってくる。

荳原：おっ！？誰の悪口？社長？マネ？まさかオレじゃないだろうな
アヤ：そんなんじゃないですー！
ユリ：動画の内容考えてるんだけど、良いアイディアが浮かばなくて
荳原：前はどんなの撮ったの？
ユリ：洋服好きだから、バイトしてるショップの新作を紹介したり、それを着てファッションショーみたいことしたんだ…ってか見てくれてないの？
荳原：忙しかったからなあ
サチコ：大人はみんなそう言う…
荳原：そう言うなよ、反響は？
セイヤ：なかなかだったよ。コメントも結構きてたし
荳原：好きなレストランとか料理の紹介とかは？
サチコ：ありきたり…ですね…
荳原：毒吐くねー

笑う五人。

荏原：面白い動画ね

他人事のように呟いてスタジオの講師の席に座る荏原。
ユリは鼻をクンクンさせる。

ユリ：先生っていつもいい匂いするよね

アヤ：それな

荏原：そう？

ユリ：香水好きで集めてるんだけど、先生は何使ってるの？

アヤ：男の人の香水って苦手なんだけど、先生のはいい匂い

荏原：オレのはー

セイヤ：先生のは女性用でしょ？…フェラガモのやつ

荏原：よくわかったな…もう販売してないのに

アヤ：スゴイ

セイヤ：オレも好きなんだよね

サチコ：女性用まで詳しいんだね

セイヤは聞き流す。

荏原：そんなに香水好きなら、いつもつけてる香水とかオススメの香水とかを紹介する動画にすればいいじゃん

ユリ：良いかも！

荏原：マネジャーに連絡してもらって案件にならないか交渉してもらえよ

アヤ：それいい！

荏原：たまには働かせろ

セイヤ：それで進めていこうか

荏原：そんなに気を使わなくていいからな！

ユリ：何が？

荏原：良いアイデアが浮かんだお礼なんて要らないからな！

ユリ、アヤ、セイヤ、サチコ顔を見合わせる。

ユリは荏原に近寄り耳打ちする。

ユリ：お礼に私とデートしよ

荏原：えっ！講師とレッスン生はプライベートでは—

ユリ：ウソだよ

荏原：知ってたもん！

ちえっと舌打ちして立ち上がる荏原。

ユリ：どこいくの？

荏原：飲み物買ってくるの！

笑いながら見送る四人。

ドアを開けようとする後ろから。

ユリ：先生！

荏原：やっぱり禁断の恋がしたいのか？そういうのに憧れるのか？

ユリ：違うの。デートはウソだけど二人きりで先生に話したいことあったのはホントだよ

荏原：なんかあったか？

ユリ：…ここじゃ

荏原：わかった。いつでも連絡しろ

ユリは頷いて、三人の元に戻っていく。

act4

○仙台市 スタジオ付近 勾当台公園 夕方

オレンジ色の太陽がビルの合間から沈んでいく。

荏原はコンビニの袋にビールを何本か入れて歩いている。

ベンチに座るアヤが見える。

アヤに声をかける荏原。

荏原：何してんだ？

アヤ：先生…動画のことで少し考えてたの

荏原：お前ら、どういう役割分担なの？

アヤ：サチコが撮影して、私が編集するって感じ

荏原：大変だな…オレも編集は素人だからな

アヤ：…

荏原：編集のことで悩んでんのか？

アヤ：違う…この前ユリ、先生に何か話さなかった？

荏原：話があるとは言ってたな…仲間割れか？

アヤ：もう！先生ってば！

荏原：冗談だよ

アヤ：コメントがきたの

荏原：いいことじゃん

アヤ：先生は動画上げたことある？

荏原：昔出た映画とかドラマとか上がってるよ

アヤ：コメントくる？

荏原：多少は

アヤ：私たちにくるコメント…ユリへの誹謗中傷なんだ

荏原：色んな人に見られれば多かれ少なかれあるだろ

アヤ：書いてある内容がね、私達しか知らないようなことが書いてあるの

荏原：例えば？

アヤ：幼なじみにカメラ持たせてお姫様かよとか

荏原：動画を見た小中の同級生だった奴らが書いたんじゃないのか？

アヤ：撮影の合間、休憩してた時にタピオカ飲んだの。それをユリがこぼしちゃって

荏原：それで？」

アヤ：撮影前で着替えちゃってからサチコと私で掃除したんだけど…そのことも書いてあって…自分でこぼしたくせに幼なじみに掃除させてって…たいして可愛くもないくせにって

荏原：現場にいたのは？

アヤ：私とサチコとユリ

荏原：セイヤは？

アヤ：その日は用事があったみたいで少し遅れて来たんだ

荏原：じゃあサチコが？

アヤ：サチコだけじゃなく、私も疑われてる

荏原：撮影を見てた奴かもしれないじゃん

アヤ：先生はわかるかな…？同じ悪口でも異性が書いた悪口と同性が書いた悪口って何となく違うの

荏原：女の勘？

アヤ：なんかわかるの。絶対女が書いているの

荏原：お前たちが幼なじみって知っていて、更に撮影現場の出来事も知ってる人間でしかも女ってことか

アヤ：折角登録してくれたり、楽しみにしてるってコメントもあるんだけど、もう止めた

いなあって

荏原：勿体ないよ、続けなきゃ。出来る事があれば協力するし、何か気づいたことあったらすぐ連絡するから

アヤ：ありがとう、先生

荏原：ただ演技を教えるだけでなく、こういうのも先生の役割だろ

アヤ：話したら落ち着いたし、帰ろうかな

荏原：暗くなってきたから気をつけて帰れよ

手を振り帰っていくアヤ。

その後ろ姿を見つめる荏原。

act5

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 屋

荏原がスタジオの中に入る。

ユリの怒鳴り声が聞こえる。

ユリの手にはカッターやハサミの様なもので切られボロボロになった撮影の衣装。

ユリ：一体なんなの？

サチコ：私じゃない

ユリ：アヤどういうつもり？

アヤ：私も知らない

ユリ：ここに衣装が置いてあるのは事務所の人か私達しか知らないんだよ？二人が知らないなら誰がやったっていうの？

アヤ、サチコ破かれた衣装を見つめている。

荏原：どうしたんだ

ユリ：…衣装が…

サチコ：私たちじゃないんです

アヤ：先生…

ユリ：ここに衣装が置いてあったのは内部の人しか知らないんだよ

荏原：この中の誰かがやったって決まった訳じゃない。外部の人間や変質者の仕業かもしれない

ユリ：なんで私の衣装だけ？なんで私達のだけ荒らされるの？

荏原：この件はプロダクションにも伝えとくけど、一旦オレに預けてくれないか？オレも

今日から見回りや戸締りをしておくから

ユリ：こんなんじゃ、撮影なんて続けられない！

荏原：結論を出す前に…気づいたことがあったらオレが報告するしオレなりに犯人を調べてみるから。結論を出すのはその後にしてくれないか？

ユリ：…

アヤ：ユリ…私達じゃないよ？

ユリ：…

アヤはスタジオを出ていく。

ユリは見向きもしない。

サチコは立ち去るアヤの方を見つめる。

ユリを見て何かを言おうとするが止めてスタジオを出ていく。

ユリは衣装を手に持ったまま、下を向き涙を流す。

act6

○仙台市 芸能事務所 スタジオビル内の階段 深夜

荏原は鍵を持って階段を登っていく。

静かにスタジオのドアを開け室内を見ると控え室だけ灯りがついている。

荏原は静かにドアを閉めて、そうっとスタジオにはいる。

控室前まで近づき息を潜める荏原。

シュッシュッというような音が聞こえてくる。

首をかしげる荏原。

シュッシュッという音。

静かに控え室のドアを開き、覗くとそこにはサチコが衣装を持って立っている。

荏原：サチコ

驚くサチコ。

サチコ：先生…

荏原：何やってんだ、こんな時間に。驚いたよ

サチコ：…ユリちゃんは香水が好きなの。良い香りがするとテンションが上がるって…だから私ユリちゃんの衣装をしまう前や撮影前は必ずこれをしてたの

手にはスプレータイプの消臭剤のスプレー。

にこやかな顔でサチコを見る主人公。

サチコ：これが気に入ってるって

荏原：そっか

サチコ：昼間はあんな事になっちゃったけど、また撮影再開するはずだし私はユリちゃんを綺麗に撮ってあげたいから

荏原：カメラマンだもんな

サチコ：昔からユリちゃんに憧れてたの…私ずっとイジメにあってて…でも修学旅行でたまたまユリちゃんと同じ班になって仲良くなってからイジメられなくなったの…ユリちゃんが庇ってくれてたんだと思う…私は可愛くないしユリちゃんみたいにはなれないけど、毎日学校が楽しくなるっていう夢をユリちゃんが叶えてくれた。だからユリちゃんの夢の…有名になりたいっていうユリちゃんを夢を支えることが今の私の夢なの

荏原：じゃあオレが何とかしないとな

頷くサチコ。

荏原：そういえば、セイヤは最近見ないな？タピオカの時も遅れてきたんだろ？やる気ないのか？

サチコ：……先生、その日ユリちゃんもアヤもセイヤ君遅れて来たと思ってるけど…私見たのセイヤ君のこと

荏原：えっ？

サチコ：ユリちゃんがタピオカこぼした時に、私お手洗いからトイレトペーパーを借りてきたんだけど…その時ユリちゃんを見てるセイヤ君の姿を見たの

荏原：それで？

サチコ：私には気づかなかった。焦ってるぽかったし。遅刻して急いで来たとかじゃなくて、誰かから逃げて来たみたいなの…それから暫くして遅れてゴメンって来たの

荏原：その事は誰にも言わないでくれるか？

サチコ：言わないよ、誰にも。だから先生も今日私がしてたことは内緒にしてね

荏原：わかった。

サチコ：先生…私たちを助けてね…

荏原：生徒を守るのは当たり前だろ

サチコ：ありがとう

サチコ嬉しそうな様子で衣装を丁寧に畳む。

サチコの姿を同じく嬉しそうな様子で見守る。

act7

○仙台市内 広瀬川沿い 遊歩道 夜

所々に電灯のついた遊歩道を川沿いに歩く荏原。
川の音がやたらうるさく聞こえる。

act8

○仙台市街地 晩翠通り 夜

荏原は書店から出てくる。
反対側の通りを歩くセイヤに気づく。
セイヤは荏原に気づいていない。

荏原：バイトかな？

いたずらっ子の様な顔をする荏原。
セイヤの後をつける。
セイヤは雑居ビルに入っていく。
ビル入口付近にマッサージや風俗店の看板。
首をひねる荏原。
ビルの中から飛び出てくる大柄な女性。
ぶつかりそうになり、避ける荏原。
女性は頭を下げて足早に立ち去る。
女性の後ろ姿を眺める荏原。

荏原：…仙台も自由な風が吹いてきてるな…

クンクンする主人公、自分のワキの下の匂いも嗅いでみる。

荏原：トレーニングジムも入ってるのかな

荏原、後ろから肩をたたかれる。
振り向くとチンピラ風の二人組。

男 A：兄さん、何か用か？

荏原：いや

男 B：ちょっと、こっちに来いよ

荏原：マジで？

男二人に連れていかれる荏原。

act9

○仙台市内 繁華街 駐車場 夜

男 A：あんたなんの用事があるってあそこに来たの？

男 B：誰かの後をつけてきたよな？

荏原：いちいちあんたらに言う必要あんの？

男 A：ストーカーのくせにいい度胸してんな

荏原：誰がストーカーだ、この野郎

男 B：ちょっと痛い目みるか

舌打ちする荏原。

後ろから声がかかる。

ヒロ：その人には手を出さない方が良くないじゃないか？

荏原振り向く。

ヒロ：兄ちゃん久しぶり

ヒロ笑顔で微笑む。

隣には大輔。

大輔：ご無沙汰してます

荏原：お前ら何やってんだ？

ヒロ：ウチのビルの下で絡まれてる人がいるからさ

大輔：ヒロさんもお兄さんだと気づいてたみたいなんです

ヒロ：短気な兄ちゃんがどんな対応すんのかと思って

大輔：いらずらもほどほどにと止めたんですが

荏原：相変わらずだな、お前らは

男 A：この方はヒロさんの？

大輔：ヒロさんのお兄さんだ…お前ら良かったな手出さなくて

荏原：オレは心の広い優しい人間だからね

大輔：でもチッって言うてましたよね

荏原：だって

ヒロ：そういうことだから、お前ら行って良いぞ

男 A、B は謝りながら駆け足で逃げていく。

大輔：なんであんなところにいたんですか？

ヒロ：こっちに帰ってきたのは知ってたけど、プロダクションか何かで演技教えてるって

荏原：教え子が、あのビルに入って行ったから…あんな雑居ビルになんの用かと思ってさ

ヒロ：ふーん……ここじゃなんだから場所変えるか

大輔：はい、車出します

act10

○宮城県 亘理 鳥の海 夜

ポツポツとライトがついている。

ヒロ：まさか、あんなところで会うとは思わなかったよ

荏原：オレもだよ…で、あのビルは何なんだ？

ヒロ：オヤジのビルだよ

荏原：ああ

ヒロ：オレはあそこの管理を任されてるんだけど、出会いカフェとか散歩カフェっていうか…わかるかな？

荏原：わかるよ

ヒロ：その男の子版ってこと

荏原：それって

大輔：あそこでは男の子がお客さんを待ってるんです

荏原：じゃあ客は女？

大輔：いえ、男性もいます。むしろそっちの方が多いかもしれません

荏原：男の子を男の客が金払って連れ出すってこと？

大輔：そうなります

荏原：世の中も変わったな

大輔：LGBT ってご存知ですか？

荏原：そりゃわかるよ

ヒロ：今はそういうことに対してオープンになってきてるでしょ。そういうお店があっても良いと思って作ってみたんだ。

大輔：なかなかの客入りです

荏原：客は気に入った子がいたら連れ出しても？

大輔：そこから先は自由恋愛になります。その先でどんなやり取りをしたとしても自由ですし、店側はキックバックを受け取ることはありません

ヒロ：とは言ってもさ、大っぴらには出来ないでしょ？だからオレらがそういう場を作ってきっちり管理してるってこと

大輔：中にはタチの悪い奴もいるので…付きまったり、バラすぞと脅かして無理矢理関係を続けさせたり

ヒロ：そういう時はオレらが出て行って、二度と脅したりする気が起きないようにするのさ。今日兄ちゃんがあいつらに声かけられたのも、付きまったりしてる奴じゃないかって勘違いされたってこと

荏原：トラブルはよくあるのか？

ヒロ：しょっちゅうだよ

大輔：さっき伺った、その男の子ですが…

荏原：どうかしたのか？

大輔：最近付きまとわれて困ってると店に報告が入ってます

ヒロ：今日のミーティングでも、痛めつけてやろうかって言ったばかりなんだ

荏原：…

ヒロ：怖い顔して

荏原：忙しいのに悪かったな

ヒロ：兄ちゃんが我慢してくれたお陰でオレは何の苦労もなく育ってこれたんだ。兄弟だろ？何かあったらいつでも言ってくれよ

大輔：お兄さんの為なら何でもやりますよ

荏原：悪いな

act11

○仙台市 晩翠通り 雑居ビル前 夜

ビルから出てくるセイヤ。

声をかける荏原。

荏原：おい

驚いて警戒しながら振り返るセイヤ。

セイヤ：先生！

微笑む荏原。

荏原：少し付き合ってくれよ

セイヤ：いいよ！

act12

仙台市 勾当台公園 ベンチ 夜

セイヤ：先生もあのビルの常連さん？

首を振る荏原。

セイヤ：何であそこにいるの知ってたの？

荏原：あの店はオレの弟が仕切ってるんだ

セイヤ：えっ！…でもオーナーとは名字が…

荏原：異父兄弟っていうのかな…お袋が再婚して弟が生まれたんだ

セイヤ：ふーん。じゃあボクがあそこで何してるかも？

荏原：聞いたよ

セイヤ：ウリしてるわけじゃないんだよ！いい出会いがあれば良いなって、やっぱキモい？

荏原：気持ち悪いなんて思いもしなかったよ

セイヤ：何で？

荏原：だって、それがお前なんだろ？

セイヤ：でもさ…

荏原：それも含めてお前だろ？気持ち悪いもクソもないだろ

セイヤ：先生は嘘つかないんだね

荏原：どうした

セイヤ：レッスンで言うじゃん

荏原：そんなこと言ったか？

セイヤ：上手に嘘をつくのが演技じゃない。自分の感情や衝動に正直に表に出すのが大切なんだって

荏原：よく出来ました

セイヤ：…

荏原…ありのままで良いと思うぜ

セイヤ…うん

荏原：でもいくら嫉妬したからって、悪口書き込んだり、衣装破いたりとは良くないぜ

セイヤ：嫉妬って？

荏原：ユリに嫉妬したんじゃないの？

セイヤ：何言ってんの、先生。ボクは男性も好きな男性だよ

荏原：身体は男性だけど、心が女性ってわけじゃないの？

セイヤ：わかってないな。身体は男性だし心も男性だけど、男性も好きなの。だからユリに嫉妬なんかしないよ。あいつ幼なじみだよ

荏原：じゃあ、だれが…

セイヤ：ねえ、先生—

荏原：そういえばお前誰かに付きまといわれてるって

セイヤ：ボク、お店でお客さんを待ってたんだ。そしたら…

act13

○ 仙台市 雑居ビル 店内 夜

マジックミラー越しのセイヤの姿。

セイヤは雑誌をパラパラめくっている。

ボーイ：ヒカルくんご指名です

セイヤ：はい

店内 別室。

ネカフェのペアシートの様な狭い部屋。

セイヤがドアを開けて入る。

セイヤ：失礼しまーす

セイヤはお客さんを見てフリーズする。

客：こんなところでセイヤ君に会えるなんて

下を向き俯くセイヤ。

お客：前からセイヤ君のこと気に入ってたんだあー

セイヤ：本名で呼ぶのやめてくれよ

お客：ごめんなさい、ヒカル君ですもんね…うれしー運命の出会いね

セイヤは顔を上げてお客を見据える。

セイヤ：小林くん

女装した小林が満面の笑みを浮かべて座っている。

act14

○仙台市 勾当台公園 ベンチ 夜

荻原：小林か

セイヤ：その日からボクが入っている時は必ず来るんだ

荻原：…

セイヤ：付き合わないバラすぞって。脅されてるうちにズルズル…あいつさ女装する時いつも同じウィッグ被ってるから汗臭いんだ…

荻原：あいつの匂いだったのか

セイヤ：ボク、ユリ達と動画やってるでしょ？ヤキモチなのか知らないけどユリをあのブスとか言ったり、撮影の日も後をつけてきたり…

荻原：悪口書き込んだり、衣装に嫌がらせしてるのは

セイヤ：あいつだと思う。撮影に行ったらユリ達に迷惑がかかると思って

荻原：それは違う。ユリもアヤもサチコもお前を待ってるぞ

セイヤ：…

荻原：ユリは疑心暗鬼になって誰も信じられないでいる。アヤは自分がこれから制作に進むのかどうか迷ってる。サチコはユリの夢を叶えたいと影であるチームを支えてる…お前は どうしたい？

セイヤ：こんなオレでも力になれるなら

荻原：こんなってなんだよ。お前らは幼なじみで、同期で、それぞれの夢を叶えようと努力してる仲間だろ？

セイヤ：…

荻原：確かにここは田舎だよ。偏見の目を持ってくる古臭い人間の方が多い。けどな仲間を信用しろよ

セイヤ：信用？

荻原：あいつらを仲間だと思った自分を信用しろ。こんな自分はって自分を疑うから人のことも疑うんだ。男が好きでも女が好きでもバイでもなんでもセイヤはセイヤだろ！もっと自分を信用してやれ。そういうお前と子供の時からずっと一緒にやってきたあいつらを信用してやれよ。あいつらなら受け入れてくれると思うぜ

涙を浮かべるセイヤ。

荏原：苦しかったよな…でもな…泣くんじゃねえーよ

荏原は例の怖い顔をしている。

act15

○仙台市街地 仙台駅へと続く真っ直ぐな道 深夜

歩きながらスマホで電話をかける。

荏原：もしもし、オレだ。ちょっと頼めるかーそう、その付き纏ってる男のことだ

悪い顔をしている荏原。

荏原：宜しく頼む。

スマホを切り足早に歩いていく。

act16

○仙台市 晩翠通り 雑居ビル前 夜

セイヤは入ろうか迷っている。

中に入ろうとした時に後ろから声。

ビクッとするセイヤ。

ヒロ：ヒカル…いや、セイヤ

セイヤ：オーナー

ヒロ：ちょっと付き合え

歩き出すヒロ。

ついて行くセイヤ。

仙台市街地を歩く。

コスプレをした人、アニメの袋を持つオタク風の男、ヤンキー風のカップル、サラリーマン、色々な人とすれ違う。

ヒロ：お前、タレントになりたいんだってな

セイヤ：はい

ヒロ：お前うちに来るな。お前は表舞台で光を浴びたい人間だ。そういう奴らが来るところじゃない

セイヤ：でも、ボク

立ち止まるセイヤ。

ヒロは振り返り。

ヒロ：こんなクソ田舎、都会に出てった兄貴が羨ましくてしかたなかった。自分の理解出来ない奴らを村八分にして疎外するようなやつらばっかだもんな、ここは…お前の気持ちはわかる

セイヤ：…

ヒロ：有名人になるって夢があんなら、ウチの店でこそこそするんじゃなくて、同じ悩みや苦しみを持ったやつらが堂々と胸をはって生きていける…そういう風にに変えていくっていう役目があるんじゃないのか？

セイヤ：有名人として…

ヒロ：そうだ。ただカッコイイ、可愛いじゃなくて、人に何かを伝えていく、人に何かを与えていく、それが俳優やタレントや有名人の役目なんじゃないのか？

セイヤ：オーナー

ヒロ：今は誰でも匿名で好き勝手ほざける世の中だ。人に後ろ指を指される様なマネはするな。向こう脛に傷のある人間になるな。光の差す表舞台を堂々と歩いて、人に何かを与えられる人間になれ

頷くセイヤ。

ヒロ：まあ、兄貴の受け売りなんだけどな

笑うセイヤ。

ヒロ：困ったらいつでも連絡してこい

セイヤ：はい

ヒロ：お前らみたいな、兄貴のような人間が動けない、闇で動くのがオレらの役目だ…早くデビューして有名になれ

セイヤの肩を叩いて歩き去っていくヒロ。

ヒロ：楽しみにしてる

ヒロの後ろ姿を見つめているセイヤ。

act17

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

荏原は席に座り書類を書きながら、レッスン生達の様子を見ている。

荏原セイヤ、ユリ、アヤ、サチコが四人で雑談している。

他のレッスン生の姿。

※ナレーション（荏原）

荏原：セイヤは自分の気持ちや悩みをユリ、アヤ、サチコに伝えたようだ。これまでたくさんの時間を共に過ごし、同じ夢を見てきた仲間の絆は簡単に壊れるもんじゃない。むしろ四人とも正直な思いをぶつけ合い、さらに絆は深まったようにオレには見えた。たくさん面白い動画をあげて、視聴者を楽しませていくんじゃないかな……セイヤに付き纏っていたあの小林ってレッスン生は

act18

○仙台市 晩翠通り 雑居ビル 受付 夜

受付でセイヤを指名する小林。

小林：ヒカル君お願いします

ニヤニヤしている小林。

店員：いつもありがとうございます。奥の VIP ルームでお待ちください

得意げに室内へ向かう小林。

個室内のソファに座りセイヤが来るのを待つ小林。

突然ドアが開き大輔らが室内へ入ってくる。

小林：一体—

大輔は小林の髪の毛を掴み、ソファに押さえつけポケットからナイフを取り出し小林の鼻にナイフの先を入れる。

大輔：声を出すな。いいか？

頷く小林。

大輔の部下は小林の鞆から免許証を出す。

部下：どうぞ

大輔：写真を撮れ。裏もだ

ガタガタ怯える小林。

大輔：理由はわかるな？今後二度と近づくな。誰の事かわかるな？

頷く小林。

大輔：また付き纏ったり、ネットに悪口を書き込んだりしたら…どうなるかわかるな？

頷く小林。

大輔：オレたちはどこまでも追いかけるぞ？どこに逃げても必ず見つけ出す。仙台だろうが、東京だろうが、沖縄だろうが関係ない。必ずお前を見つけ出す

唾を飲み込む小林。

大輔：理解したら返事をしろ

小林：はい

目で部下に合図を送ると一枚の書類を小林の前に置く。

大輔：名前を書いてハンコを押せ

小林：印鑑は

大輔：拇印でいい。書いたら出ていけ

急いで書いて出ていこうとする小林。

部屋を出る所で大輔は呼び止める。

大輔：この先…あいつらに誹謗中傷があればオレはお前だと判断する

小林：そんな

大輔：おまえかどうかは関係ない。オレはお前だと判断する…オレと二度と会わないようにしろ

急いで部屋を出ていく小林。

act19

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

スタジオ内で引き続き四人が楽しそうに話している様子やふざける他のレッスン生達。

※ナレーション（荏原）

荏原：あいつは二度と顔を出さなくなった。人を脅したりゆすったりする卑怯な人間は、自分が同じ立場になったらすぐ逃げていく…そんなもんだ

セイヤ：先生の弟さんカッコイイんだよねー

笑顔で荏原を見るセイヤ。

荏原：オレは！？

笑い声が起きるスタジオ内。

ユリ：先生の動画の番組名決まった？

荏原：ああ、お前らも出るか？コラボするか？

アヤ：初回からコラボすんの？

荏原：いいから、いいから

act20

仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

窓から日差しが差し込む。

カメラの前で立ち位置の指示を出す荏原。

カメラの前に立つ。

主人公の横にセイヤ、ユリが並んで立っている。
サチコがカメラを回して、アヤがキューのサインを出す。
荏原は気取った様子。

荏原：皆さんはじめてまして！『backbeat！』の時間です

画面は制止。

終